




研究者名※	張 珉榮 JANG Minyoung	学位※	修士(社会福祉学)
所属※	人間社会学部 社会福祉学科	職名※	助教
連絡先	janm@fc.jwu.ac.jp		
URL			
researchmap※	https://researchmap.jp/7000020037		
研究分野※	社会科学、社会福祉学		
研究キーワード※	高齢者福祉、認知症支援、ソーシャルワーク		
共同研究・競争的資金等の研究課題			
社会貢献・産学官連携活動等			
受賞歴	日本学術振興会 JSPS-NRF Asian Science/Academic Seminal 2012 presentation Award (2012年8月)		

研究領域	社会福祉学、高齢者福祉、認知症支援 
研究テーマ※	認知症の人の地域生活を支える支援に関する研究
概要※ (概ね1000字以内) (写真・グラフ等自由)	<p>【研究の背景・目的・内容】 筆者は、高齢者福祉を中心に、認知症の人への支援について研究している。 研究に着手した背景は、高齢化の進行とともに認知症の高齢者が増加している中、多くの偏見や先入観が地域に根強く存在しており、認知症の人が社会の中で暮らしにくい現状にある。この問題意識から、①政策的観点から高齢者政策および認知症対策を分析する研究、②認知症当事者(若年性認知症含む)の視点から支援のあり方を模索することを中心に研究を行なっている。最近は、認知症の人の「社会参加」に着目し、半構造化面接法や参与観察法により調査・分析したデータを用い、当事者視点から支援の在り方を考察した。今後は、認知症への偏見、誤解、先入観といった認知症に対する「意識」を明らかにし、認知症の人の地域生活を支えるための支援について考察する予定である。</p> <p>【応用例、研究の展望】 本研究は、認知症でありながら、社会に参加し、地域で暮らし続ける社会に向けて示唆を与えることを目的としている。今後の研究の方向性としては、認知症当事者の意見を反映した認知症対策や実践の重要性が社会的にも徐々に認識されてきている現状を踏まえ、どのように政策や実践に反映していくか具体的な課題を模索したいと考えている。さらに長期的には、ますます高齢化していく社会への対応として、認知症高齢者を含め介護が必要な高齢者に対する支援のあり方について研究していきたい。</p> <p>【研究方法の特色】 認知症の人が抱えている課題を明らかにし、対策を検討するにあたり、「認知症当事者の視点」から分析している点。</p>
本研究関連特許・論文等	<ul style="list-style-type: none"> ・「A study on policy of support to the elderly with dementia in Japan and future tasks」(『長期養老研究(The Journal of Korean Long Term Care)』2015年2月) ・「認知症の人の社会参加に関する研究—当事者視点に基づく社会参加支援に向けた一考察」(『明治学院大学社会学部付属研究所年報』2017年2月) ・「認知症の人の社会参加の意味付けと支援について—参与観察による『エピソード記述』の分析から—」(『明治学院大学社会福祉学紀要』2021年3月)
共同研究・外部機関との連携への期待	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・